

明治・九谷焼の名窯・作家

～ 日本の伝統的美意識や技法を引き継いだやきもの ～

鍋木商舗 [1822年 -]

1822年、初代 鍋木次助によって金沢で九谷焼を取り扱う最初の店舗として開業されました。当時は加賀藩の意向で九谷焼の再興が推進され、若杉窯（1811年開窯）や小野窯（1819年開窯）が操業し、1823年には民山窯が開かれ、2年後には吉田屋窯が開かれるなど、再興九谷の諸窯が現われていました。初代・鍋木次助が商舗を軌道に乗せた後、2代・太兵衛は商舗の経営を発展させることに努め、自家工房に陶画工を集めて絵付した完成品のみならず、民山窯の一部の商品も販売しました。3代・太兵衛は1858年に、加賀藩からの通達に従い、自家の絵付工場で作成し、不足の時には能美産の製品仕入れました。4代・太兵衛は1867年、九谷焼の輸出の機運が高まったと見て、他の陶器商人と連携し、神戸から九谷焼の輸出を始めました。内海吉造を始め、民山窯の優れた陶画工を集め、自家の絵付工場にて、若杉窯や小野窯から買い入れた素地に絵付をしました。生産体制が出来上がり、増え続ける需要に応えるため、金沢のみならず、大聖寺、小松、寺井など県下全域からも良品を仕入れ、また阿部碧海、内海吉造、九谷庄三、松本佐平などの名工らに制作を依頼しました。鍋木商舗の製品は必ず優れた陶画工に制作を依頼されましたが、ほとんどの場合、“鍋木”の銘で（名工の銘を入れた製品は少なく）、高品質の製品を販売し、“鍋木ブランド”の構築に努めました。

< 海外万博の主な受賞歴 >

1904年 セントルイス万博 銀賞

1905年 リエージュ万博 金賞

1910年 日英博覧会 銀賞

< 国内の主な受賞歴 >

1877年 京都博覧会 進歩章受賞

1878年 京都博覧会 有功章

1892年 富山県博覧会 二等賞銀牌

1903年 第5回内国勸業博覧会 三等章

1916年 美術工芸品展覧会 二等賞